

KODAK COLOR CONTROL PATCHES

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19



5  
門利  
1534  
10

嵐山集卷第十一 冬部

初冬

本の葉秋ふくみ子と

初はくちりわゆるん秋

てはらば十月の葉は小

葉の秋はふくみ子

お雪の秋はふくみ子

初はくちりわゆるん秋

正徳の御入道にけり也神無月

うのころの御入道にけり也神無月

日中もあつた御入道にけり也神無月

佛あり也御入道にけり也神無月

多しやう御入道にけり也神無月

年中此花さげ風の神無月

老の男の毒もやもらひも神無月

小妻あつたもやもらひも神無月

あはれ也御入道にけり也神無月

徳野山出つた御入道にけり也神無月

水時ゆつた御入道にけり也神無月

十月の朝かき入道にけり也神無月

十月の十とつた御入道にけり也神無月

十月の八とつた御入道にけり也神無月

かゝる事のため御入道にけり也神無月

あつた御入道にけり也神無月

治

正徳

治

日一

治

正徳

治

貞宣

治

保友

治

長宅

治

貞勝

治

伊人

治

室友

治

治定

治

政也

治

玄茂

治

祐政

治

重隆

治

貞保

氏神もあつて生駒こころ

二

了あ守 夕暮

小妻ゆえの初書と花は先

あ本 常眠

小妻ゆもあつてあつてあ

困あ守 政次

庭あはれ初書と花は先

ああ守 伴牛

小妻にもあつてあつてあ

ああ守 重信

妻と妻と秋とあつてあ

ああ守 長流

あつてあつてあつてあ

ああ守 月

時由

時由はあつてあつてあ

脚もあつてあつてあ

あつてあつてあつてあ

あつてあつてあつてあ

あつてあつてあつてあ

あつてあつてあつてあ

あつてあつてあつてあ

あつてあつてあつてあ



何んきしや福七さかきりし時  
 水りか行と志くまん大紅蓮  
 志くしつしんかつたなう志くわが  
 時わあゆわ並らふ志くま  
 けこ歌きふ志くしつらわ  
 浮きあがりしつら池の志くま  
 雲は脚むくし時ゆれん  
 冬の日も好て志くしつら

了壽 久壽  
石名 貞勝  
石名 良任  
少 能昌  
善 良和  
善 正徳  
善 忠高  
善 佐元

河意は時ゆの多う成航舟  
 水方ゆらんがどわく時ゆ  
 夕くられわけておらわ  
 煮ぬきし一葉や守のゆれ  
 菊ももやうし時ゆれ  
 小野し

下 俊貞  
善 政原  
善 秀儀  
了壽 久壽  
伊 一葉  
善 保友  
新 玄樞

時由乃此法なること

明乳とくくわらり志らぬ

貞利

世よりうらひ穢り時由乃や此脚

不持

尺の蜂冬ハ整をふくは進

長鏡

じこ山か冬あゝから時由乃

月

川着とてまらりあどしくぬ

わらうまらんを時由乃喜やうつ

一

脚子まきやまわ時由乃のまきり

一

并の為を時由乃あうそえり

一

滋右紀侍も奥の

一

山鏡やまきとくこれのあかり

一

月や何れ目果るわらり村時由

一

きよ木を新母乃進右女

由りあられを父母あま

の法を新治とてまきり

きり

一

あひもせしむる神の時  
時系ちの時ぬらんやあま

冬紅葉

毛纏のちりりあくふれん  
紅葉あふ山を眺むよのふ神  
紅葉ちりり山にやと糸と去来  
らひ紅葉らり流るるくや新  
冬山あふる紅葉や御をね新

定を  
生毫  
去徳

東福寺  
乃紅葉とみく

通天のりも地や日中  
人此級りすや朽葉のあ  
冬ららぬ紅葉や風うゆる  
あふ赤朽葉乃中はあこ

勝之  
薑林  
長森

本祭付為葉

あふ赤朽葉乃中はあこ



宗張十の年遊若也

比然へらりね本乃思付何由  
 本思付此路ありや大と物  
 新つくは時ぬゆらり本此業  
 本此よりり元るれや谷の  
 山風よめさよせ存ふ本此業  
 猪も本より落る備此本の思  
 月くると本此もや天物らる西山

本乃らる落思家の端縫針

本業衣乞ても極り岩分計

雷と御共きん本此業乃家

本乃思衣柄ふり靴のちり光

風ゆらりりぬ登りこちり一本の

ある谷や本此業乃ぬの脚と

うきあひのぬとにやふや本此業

わやくたうこ源本此業の雨酒

貞利

玄母

英秀

在藏



本意家より地次越の河

長發

本のもあらも書あつての河

月

六波羅

地ありくちりく落れ本意

う三月もいぬあのもく山

山通よりくたわ本此意天物

鶴鶴羽重うとて乃森此意

い小河色ゆて落れ本意

いふ歌とてあらとく他借

の教句くくあらとく時

いふ歌とてあらとく時

山娘のあらとく時

柳の葉や落てとく時

冬草

す祿祿もやまていすれつ極

深きいふもまてあらとく時

左 右  
苗 貞好  
昌長

水仙花

雪花也きえんくわく水仙

留 露

長谷

子雲子人ゆり人あまのこ

政伝

花葉むじらや夫人のあまのこ

利政

水仙の花もあまのこ李白家

長谷

水仙一丈のすかしの地と

池乃坊きくさるそて東

の流御又せちるさわ

時

池の坊とさくくも原とさく

むわけてあまのこくわあすん

枇杷花

むすのたきめつあまのこ

物丸やあまのこむすのた

あまのこあまのこむすのた

むすのたあまのこむすのた

十一

のた

春風のよみおちるに花

冬の季に花終るに花

梅枝のよみおちるに花

花のよみおちるに花

咲く花のよみおちるに花

茶花

花のよみおちるに花

茶の花のよみおちるに花

花

花

花

花

花

茶の花のよみおちるに花

茶花

花のよみおちるに花

茶の花のよみおちるに花

花のよみおちるに花

茶の花のよみおちるに花

花のよみおちるに花

茶花

茶花

とりの道の系述書

餅のつくりの何と申す年目

餅子

餅のつくりの何と申す年目  
餅のつくりの何と申す年目  
餅のつくりの何と申す年目  
餅のつくりの何と申す年目  
餅のつくりの何と申す年目  
餅のつくりの何と申す年目  
餅のつくりの何と申す年目  
餅のつくりの何と申す年目  
餅のつくりの何と申す年目  
餅のつくりの何と申す年目

餅子

餅のつくりの何と申す年目

餅子

餅のつくりの何と申す年目

餅子

餅のつくりの何と申す年目

餅子

餅のつくりの何と申す年目

餅子

餅のつくりの何と申す年目

餅子

餅子

餅のつくりの何と申す年目

餅のつくりの何と申す年目

餅子

餅子

心こころのまへとよきよき臘ろう月のまへ物

果は能の山やま也や孫まごつら此こゝ月つき乃の白しろ氣き

池いけ乃の心こころのまへとよきよき月つきの影かげ也や

月つき雲うみとほのまへとよきよき切きつと未ま也や

萬井まんせいと

月つき雲うみとほのまへとよきよき切きつと未ま也や

書かき此こゝ乃の月つき也や乃の心こころのまへとよきよき切きつと未ま也や

雪ゆき乃の心こころのまへとよきよき切きつと未ま也や

月つき雲うみとほのまへとよきよき切きつと未ま也や

水みづ也や乃の心こころのまへとよきよき切きつと未ま也や

月つき雲うみとほのまへとよきよき切きつと未ま也や

猿さる推おしくも乃の心こころのまへとよきよき切きつと未ま也や

空そら乃の心こころのまへとよきよき切きつと未ま也や

瞬まばた月つき乃の心こころのまへとよきよき切きつと未ま也や

芭蕉ばしやう乃の心こころのまへとよきよき切きつと未ま也や

雪ゆき乃の心こころのまへとよきよき切きつと未ま也や

一滴

英政

物之

貞利

松森

芳忠

長調

月

梅盛

友松

俊成

久美

たうひくわあそ月の水餅

靴

靴の妙く靴の意も靴の計  
礎と流そころや靴くら  
靴のおもしきハあつて  
水ハ靴一とんく靴くら  
靴落ても靴のよくの靴柳

速書

流のみふふハ年が流の靴極  
夏は虫あつて靴入靴靴  
大地くころきつらや靴極  
わききの靴靴とれや靴極  
靴靴似くちがわしハ靴靴  
靴靴やころ下靴靴靴靴  
靴靴ハ流靴くらやけはり  
流靴の靴靴靴靴靴靴



い月の名をいきたれぬ程

菊薙とつるなきおのほろは

本はまこめかふとおのほろは

切の目ふをまらへ霜のほろは

冬のおれおのほろは

風の中をのほろは

秋冬のおのほろは

ゆく程乃梅おのほろは

季吟

月

心

夢

何乃本と著法はるるは

物毎中への程程目乃本ら

第六乃じのらとせよ程程

よき日といふくじお程の程を

何乃本と著法はるるは

物毎中への程程目乃本ら

第六乃じのらとせよ程程

よき日といふくじお程の程を

良和

心

力

貞利

益

政

位

益

時由意此中かろりる

乞乞

日わきせ八月乃梅道は

家産

藤舟の帆もろりる

清正

眉目さ存のさか

長宅

らんちわふをむむさ地

宗門

水乃ろりい生木やろり

一入

布為好し

空のくも我乃船のろり

之廣

船ろりい流のめ藤乃け

芳島

さくも許の葉の

一角

木の思ろりも

欠堂

我乃流のき

貝好

國のき

正勝

田若の

長次

もや

務旅

大悠

取心

冬ハきこいぬに文目ハ秋の白猪

整山 保友

秋の猪をいへるは池澤北山の

きふ 照次

秋の猪は目さるるり穴の

江戸 一貞

秋は猪をいへる物もやあはを

くまの 林兼

さゆり秋の猪は洞子の

粉川 文兼

秋は猪をいへる物もやあはを

きふ 文兼

秋は猪をいへる物もやあはを

保洞 利政

秋は猪をいへる物もやあはを

保洞 保友

秋は猪をいへる物もやあはを

河野 昌政

秋は猪をいへる物もやあはを

整山 吉次

秋は猪をいへる物もやあはを

保友 保友

秋は猪をいへる物もやあはを

後次 後次

秋は猪をいへる物もやあはを

政後 政後

秋は猪をいへる物もやあはを

政次 政次

秋は猪をいへる物もやあはを

幸以 幸以

秋は猪をいへる物もやあはを

保友 保友

町人教を流しに流す事

義

夫と地と海との事

政次

生る事と死する事

長

なす事と成る事

月

山と谷との事

心

鬼神との事

心

教の事

心

是れを流す事

心

おけりし教とありし河

心

流るる事

心

商人の省

子乃教

心

教の花

心

教の事

心

教の事

心

教の事

心

数

茶のほほりりわくしの産

字治也く

数ゆりあふきの花は沼と海  
木の葉は川数わ夫物磯  
数らく多此羽もむやむ等  
多相のあまゆもろく数く相  
伊念利の橋乃とあのみ数

数くそ本の思はれ花葉の  
やゆりりや数あろくひ  
そらまあり地のとろむあむ  
意もさんり思ふあむらつ  
海中つる数わ万戸の玉数  
時わとこえれ数の酒をむ  
お聲茶あやゆく

南春日を天りりうらむ数

星雲の如く星の如く玉の如く

蘇の如くや竹織地の如く

蘇の如くや玉の如く

少の如くや玉の如く

風のもや押揉ぬ珠の如く

風のもや玉の如く

玉の如くや玉の如く

玉の如く

の如く蘇も玉の如く

玉の如く

玉の如くや玉の如く

玉の如く

玉の如くや玉の如く

振舞

玉の如くや玉の如く

玉の如く

玉の如くや玉の如く

玉の如く

玉の如くや玉の如く

玉の如く

玉の如くや玉の如く

玉の如く

高佛かたまりぬりくわく

津田 如美

海よりかゝるる好珠の如佛

津田 如美

雲と起しゆくも花は玉露

多川 如美

厚氷よりや露のたま露

如風

門やまじくはらりゆくも花は玉露

知念

玉露の如くはらりゆくも花は玉露

次念

たまも花は玉露のたま露

無念

ありてはけなかりありては

友美

今も花は玉露のたま露

心念

花は玉露のたま露

久美

ありてはけなかりありては

重美

一天下も花は玉露のたま露

七美

大雲よりてありては

七美

ありてはけなかりありては

七美

風の玉露のたま露

七美

ありてはけなかりありては

七美

御りも酒なるしんき雲水

うらとそめもはむもあやと

茶舎りりりもあんな人のあ

高雲か少きい雲水のあ

雲

や新まこころりりりりりり

法への田ゆん作りりりりり

法への田ゆん作りりりりり

東人好そそ

も海松やさんしんしん物る雲酒

ま此産の雲井ありありりりり

雲ありりりりりりりりりり

まふしりりりりりりりりり

天ふりりりりりりりりりり

あまふりりりりりりりりり

脚ふりりりりりりりりりり

永光寺	有石	有石	有石	有石	有石	有石	有石
貪夢	貞利	有石	有石	有石	有石	有石	有石



肩よりしてふるまはせむ此此 作 正 愛  
 義者好むあまらむやう此此 作 笑  
 渡る渡 あ く

こころ人かあつむけんけ 義 政 方  
 う此此 あ ゆ う あ ゆ う の み を け 長 瀬 丸  
 神の神 の は と み を し の か ら 擲 小 こ  
 くりくり も 酒 は く お ゆ ゆ う 義 こ  
 ありあり あり と 流 は れ と さ れ 小 こ

氷

あまらくして川つらとらり氷氷  
 水のあや敷をりあくと氷氷  
 浪の敷うそかまけり氷氷  
 一面の海さくらり氷氷  
 よのうたおあまらり氷氷  
 敷の氷あまらり

あまらり敷の氷は氷氷

浪を垣へての越えしる氷の形

る此のわやゆ火鎮火斗とからり

雪餅もそまうく氷沙糖か

わらわらの浪や氷のころり較

うらたよりゆとや氷はより枕

わをわて氷やよりつる橋川

あもよりけ氷とるもよりつる海

餅雪とそまうらけやうす氷

然此のわいあふとくしり氷

紙屋川百重なりりより氷

目の目もぬ浪石のあかり

一うんの池なり氷や大町へん

梅乃に氷水や銀の竹なり

るらあらの甲ゆなりりる氷

氷梅ゆあそと蓋より氷か

あつ氷よりこときやとる

空のふくそくさくたせ水面  
 水より池を鏡の鏡形に映  
 鏡ありとくしり水の鏡に映  
 ひりくさくさくるしや厚  
 水と水何れも水の夜川  
 冬いとあも春の川やあけ  
 ありあけくわらたけの厚水  
 新屋敷に壁のつて侍

とくさく

空のふくそくさくたせ水面  
 水より池を鏡の鏡形に映  
 鏡ありとくしり水の鏡に映  
 ひりくさくさくるしや厚  
 水と水何れも水の夜川  
 冬いとあも春の川やあけ  
 ありあけくわらたけの厚水  
 新屋敷に壁のつて侍

李吟  
 新屋敷  
 政辰  
 政辰  
 政辰  
 政辰  
 政辰  
 政辰



ともさりとてはる人の喜や井の  
 ありあつてもはるの  
 文そのあつてもはるの  
 池の水あつてもはるの  
 鼻肩くもはるの  
 新くもはるの  
 水も流てもはるの  
 白浪とわもはるの

忠次  
 清成  
 一滴  
 一信  
 政泰  
 芳島  
 正在  
 繁秋

磯の産ともはるの  
 青洞もはるの  
 水も流てもはるの  
 花のもはるの  
 水も流てもはるの  
 水も流てもはるの  
 水も流てもはるの  
 水も流てもはるの

友富  
 心成  
 林島  
 貞利  
 元子  
 三由  
 如貞

水さへすもさるまゝ紙張川

井

正氣

冬廣といはん水の流るまゝ

井

未始

是もかんのさる紙乃翻りお川

井

妙欠

さひろもさるは水の流るまゝ

井

無難

流るれとく流る水もかへるまゝ

井

政直

空をうて紙河とさるまゝ

井

吹田

流るやあひさるんかん

井

利政

石橋めくともこの水はる

井

利政

うらと

石橋と井の水北七跡落

井

勝次

日の流つとくそ水乃あつとら

井

祐政

水乃り床の跡こころ水亦

井

長飛

玉女と雲とあつらん水亦

井

こ

天井と水とくころや池の急

井

こ

淵のすじ池いあつあいの水

井

こ

目よりあそくころいん水

井

こ

河島はよめ推さる水那

あまのこも水砂糖の出前

鳥丸亞相江戸下り

の時かく尸けきい大河

とも多き水むとそ

馬ゆりたれて雪もくぬ種

と水付るさくわき藤句

かきこひもりして波は厚水

あろこひてさるも水のまの河

うはあたらも海子此のわら

家川けまの氷やこれじとひ

東の松田結る巻の巻人四

るりの時

雪杖とれまきしうけら水か

水松杓のま又さるる水船

獨藩のちぬら水の家

鯛らりる此道きり水魚

網代付紫漬

衣川やすきりりりりり

ふしはげん魚の移り此者

紫漬と藻のしよのさこ子

生とるやりりりりりりり

川よりかきりりりりりりり

冬梅

良徳 未

朝日の冬もふ

雪ゆりて花やうんんんんん

舟月かきんんんんんんんんん

冬候とさきりりりりりりり

まほほ百子梅とちのち

冬へ毒雪のうらやから

冬梅ふきのあし

冬梅の子まきりりりりりりり



やり梅がまきしるる雪は花  
 年此内か咲ぬ梅やまの影  
 おく家さしむるくまの  
 冬ありとさき智恵にまを  
 美の季と師をのうら人妻の花  
 十二月いそ家ぬ梅あよと  
 け花か風とむとをか冬あり  
 雪は花をさし子の木此母に  
 宗貞  
 几雲  
 冬雪  
 夕霧

雪は内のかんくい毒はすま洲  
 冬候く出るや梅の町まを西  
 町のうらめ候もがを園梅江色  
 うんたうらめ候も張良ふまの産  
 冬候やまの町んまの梅花  
 小登めく  
 塩梅の神本るれや雪は梅春  
 知るるるるるるるるるるの毒  
 宗貞  
 貞利  
 長歌



書梅の一年の日記

月

